

平成30年度事業報告

平成30年度の事業報告としては、従来からの日中活動としての就労継続支援B型と自立訓練（生活訓練）からなる多機能型事業所「芦屋みどり作業所」と障害者の生活や就労を支える「芦屋みどりホーム」（共同生活援助）、そして夜間等対応の「みどりホーム」（短期入所）の運営とともに、芦屋市・西宮市委託の「日中一時支援事業」を行いました。日中一時支援事業は、他の事業所を利用されている方がご家庭の都合等で一時的にみどり作業所を利用するサービスで利用者数が増えています。

① 芦屋みどり作業所（就労継続B＋自立訓練）

地域のニーズに応えるという意味では、平成29年度に隣接する芦屋特別支援学校の卒業生の入所があり、平成30年度は卒業後の受け皿としての支援学校高等部の職場実習生の受け入れをさせていただきました。又、地域移行の流れから精神障害者の退院後の受け入れもさせていただきましたので、利用者数が定員（30名）近くになり、定員増の対応を迫られています。又、開設当初から長年務めていただいた田中管理栄養士が退職されましたが、新に玉谷栄養士が就任され、引き続き玉谷栄養士のもとでおいしく、栄養豊富な昼食提供も継続します。そして、余暇活動としては、平成28年度の北海道旅行に続き、30年度も2泊3日の沖縄旅行を行い、利用者みなさんに喜んでもらいました。

② 芦屋みどりホーム（共同生活援助）

平成30年度のグループホームに関しては、芦屋みどりホーム（春日町・定員15名）、みどり第2ホーム（陽光町・定員12名）、みどり第3ホーム（若葉町・定員6名）の運営を行い、各ホームとも事故等もなく、順調な運営を行うことができました。そのうち、春日ホームに関しては、老朽化のために改修等の必要を感じ、平成32年度の建て替えを計画しています。

③ みどりホーム（短期入所）

平成30年度は隣接する芦屋特別支援学校生徒の短期入所利用が増え、中学部や高等部の生徒さんが、定期的に利用されるようになりました。特別支援学校の生徒さんが家庭から離れて施設で生活することで、自立に繋がると考え、学校の先生方や保護者の方々との連携を図り、食事、入浴、排泄等の基本的な生活習慣の確立に繋がるように支援をさせていただきました。

◎契約 「契約更新確認書」により4月利用者と契約をしました。

◎個別支援計画 利用者の要望・現状の課題等をもとに個別支援計画を作成しました。4月に立てた個別支援計画は、9月に見直すとともに、利用者の希望や必要に応じて随時新しい支援計画に改定し、日常の支援はこの支援計画をもとに行いました。職員全体で個別支援計画作成のための支援計画会議を行い、個々の利用者に対し職員間の一致と方向性を同じくし、日々の支援を行い、充実したものになるよう心がけました。

### ◎就労継続支援事業B型

\*定員24名 在籍人数28名 3月現在

\*職員:管理者1名、サービス管理責任者1名、栄養士1名、調理補助1名 職業指導員1名、生活支援員3名

\*事業の目的 障害者総合支援法に基づき、一般企業での就労が困難な利用者に対して、働く場を提供すると共に、知識及び能力の向上に必要な支援、訓練を行いました。

\*作業の内容

屋外作業 ①市内12か所の公園清掃、②総合福祉センター(除草年2回込)、③市立6保育所ゴミ処理、剪定  
④マンション清掃。⑤総合公園。⑥リードあしや、⑦個人宅の庭の手入れ、⑧その他の請負業務

屋内作業 ①手作り雑巾、②竹箸セット、③ダイドーハント(ボルト・ナット作業)

販売作業 打出商店街、福祉センター、作業所前での売店販売(内容:雑巾、竹箸セット、すずかけクッキー)  
自動販売機のジュース販売(福祉センター、作業所前) 福祉バザー(6月30日)

芦屋市から委託された公園清掃のうち2か所は、作業所に近いため月～金曜日に徒歩で出かけています。残り10か所は週に一度、車で巡回し清掃しています。29年度より新たに受注した公園2か所の灌水作業に取り組みました。どの仕事も地域に出でいき、市民と触れ合う場所でおこなっており、気をつかうところもありますが、市民の方に障害者を理解していただけるように、また気持ちよく公園を使っていたらいいようにと頑張っています。

内職のダイドーハントの仕事も増えてきて、いつもの手作り雑巾だけでなく仕事の幅が広がりました。

それぞれの方の能力や特性を活かして、積極的に取り組める新しい事業開拓に取り組みました。

\*平成30年度 年間作業収入 約664万

\*年間支払工賃総額 約457万 1ヶ月当たりの平均工賃 1万121円

\*全工賃支払人数 35人(3月現在、就労継続支援事業B型、自立訓練)

### ◎自立訓練(生活訓練)

\*定員6名 在籍人数7名 3月現在

\*職員:管理者1名、サービス管理責任者1名、栄養士1名、調理補助1名 生活支援員 2名

\*事業の目的 日常生活能力をより豊かに向上するための訓練と個別の相談支援を行いました。(通所による支援)

\*プログラムの取り組みが個々の能力によって違ってくるので、プログラムのための企画打ち合わせや準備をし、それを基本に丁寧な支援を目指してきました。3か月ごとに個々の方のモニタリング記録をつくり、7月、10月、1月、4月に利用者との面接をしました。できる限り要望を聞き、細やかに目標を立てながら取り組んできました。

自立訓練プログラムは毎週火曜日の午後1時～3時15分に行いました。年に1度、1日プログラムを行い、三宮に買物に出かけ、自分の工賃で食事や買い物を楽しみました。

日々の公園作業や内職、土曜・祝日開所、イベント等は就労継続B型といっしょに行いました。

\*30年度 年間自立訓練プログラム内容

4月	4/3親子お花見ハイキング 4/3買い物、近隣散策 4/5写生ハイキング 4/6音楽 4/10調理 チヂミ 4/17近隣散策とダイエーに買い物 4/20音楽 4/24調理 たこ飯 卵とじ みそ汁
5月	5/1手紙を書こう 5/3、5/4、5/5祝日開所：ハイキング等 5/8調理 ホットケーキ 5/11音楽 5/15花の種を植える 5/18音楽 5/22ハイキング(野外昼食)、チョコブラウニーづくり 5/29 カメラを持って近隣散策
6月	6/1日帰り遠足 神戸フルーツフラワーパーク 6/5手紙を書く 6/8音楽 6/12健康診断 調理 ミックスジュース 6/15音楽 6/19焼きそば、そばめし 6/26ハイキング(野外昼食)ドリル、塗り絵等 6/30福祉バザー
7月	7/3日ダイエーに買い物、7/6日音楽 10日パンケーキ、1/17暑中見舞いのハガキを書く アイスクリームパフェ、7/20音楽 7/24バウンドケーキ作り、7/31ドリル
8月	8/7フルーツポンチ作り おやつ用 8/3音楽 8/8水泳(海浜プール) 8/9納涼会 8/17音楽 8/21花の買い物と花壇の手入れ 8/22水泳(海浜プール) 8/28カルピスゼリー作り おやつ用 8/29水泳(海浜プール)
9月	9/7音楽 9/11 1日プログラム 三宮にお買い物 9/18日買い物とヨットハーバーにて茶話会(三宮の反省会) 9/21音楽 25日調理 お好み焼き
10月	10/2ドリルとミックスジュースづくり 10/5音楽 10/9チョコレートブラウニー(おやつ) 10/16ホットサンド茶話会(沖縄旅行について調べる) 10/19音楽 10/23スイートポテト(おやつ) 10/30カメラを持って近隣散策
11月	11/6買い物(作業所のおやつ、薬他) 11/8、9、10沖縄一泊旅行 11/13ホットケーキ 11/16音楽 11/20年賀状ぜんざい作り 11/27買い物(忘年会のプレゼント、おやつ他) 11/30音楽
12月	12/4年賀状焼き 蒸かし芋づくり 12/7音楽 12/11スイートポテト作り(おやつ) 12/13合同忘年会 12/18クリスマスケーキ作り 12/21音楽
1月	1/11音楽 1/15 調理 ピザ 11/18音楽 1/22 花壇の手入れ 調理 フレンチトースト 1/24 作業所ホーム合同新年会 1/29 買い物、花壇にお花を植える
2月	2/1音楽 2/5調理 たこめし、みそ汁、卵とじ 2/12 調理 バレンタイン用チョコレートブラウニー 2/15音楽 2/19 調理 お好み焼き 2/26 買い物、ヨットハーバーで記念写真と茶話会
3月	3/1音楽 3/5 色紙を書く 3/12 調理 ホワイトデーのケーキ作り 3/15音楽 3/19 調理 グラタンと卵サンド 3/26 買い物とサイゼリヤでお別れ会

◎年間イベント

仕事だけでなく、作業所での日々をより豊かに充実したものとなるようイベント等の企画をしました。

- 4月 親子お花見ハイキング、写生ハイキング、さくらまつり見学、ハイキング(野外昼食)
- 5月 祝日開所(ハイキング等)、アートフェスタ参加、ハイキング(野外昼食)
- 6月 日帰旅行(神戸フルーツフラワーパーク)、健康診断、福祉バザー
- 7月 七夕飾り作り、精道中にて七夕茶会 ボーナス、サマーカーニバル、保健福祉フェア、水泳訓練1回
- 8月 ホーム・作業所合同納涼会、コミスク夏祭り、水泳訓練3回
- 9月 陶器絵付け、ドライブ(伊丹空港)
- 10月 健康講座・健康診断の個別結果説明会、インフルエンザ予防接種
- 11月 三田谷フェスティバル見学、二葉教会バザー参加、2泊3日沖縄旅行
- 12月 障害児・者作品展、作品展見学、ボーナス、芦屋市年末の集い、ケーキの日・ケーキ贈呈式、忘年会「カラオケ大会」
- 1月 新年会「王将」、えびす参り
- 2月 節分の豆まき、バレンタインのチョコブラウニー作り(自立訓練)、バレンタインゲーム大会(保護者会主催)
- 3月 ホワイトデーのケーキ作り(自立訓練)
- 毎月 音楽(月2回)、図工(毎週木曜)、昼食会(選択メニューと誕生会)、散髪、保護者会、コーヒータイム、体重血圧測定  
毎週土曜開所・祝日開所(行事参加、カラオケ、調理、卓球他)

◎ その他

- \*栄養士によるカロリー計算された美味しい昼食提供をしました。月1度の昼食会の選択メニューや野外昼食も好評でした。
- \*毎日、グループホームから作業所、自宅から作業所(自力通所できない方)、最寄りの駅から作業所の送迎サービスを行いました。運転手は安全運転に心がけました。
- \*月に1度利用者さんの保護者で理容師をしておられる方に来ていただき散髪をしていただきました。
- \*ホーム、短期入所との連携や計画相談事業との連携、他事業所、保護者との連携を大切にし、必要な時は支援会議を開き、利用者がよりよい生活を送れるように取り組みました。
- \*担当者を決め業務日誌、ケース記録、各会議記録、研修記録、ヒヤリハット等の必要な記録をとりました。
- \*年に2回の避難訓練、消火訓練を行いました。
- \*教員免許取得希望者の介護等体験事業による大学生の実習を年間34名受け入れました。仕事やスポーツ、レクリエーションをいっしょに楽しみ、利用者はとても喜んでおられました。
- \*月に1度、保護者会を持ち、作業所の様子や行事案内、予定表を説明し、また家庭での様子をお聞きしました。

平成30年度「芦屋みどりホーム」事業報告

管理者 大澤二郎

サービスの種類	共同生活援助(グループホーム)		定員33名
共同生活住居	①芦屋みどりホーム	芦屋市春日町18の12	定員15名
共同生活住居	②みどり第2ホーム	芦屋市陽光町4の60	定員12名
共同生活住居	③みどり第3ホーム	芦屋市若葉町4の1の223・224	定員6名

1、サービス実施内容

・平成30年度共同生活住居別利用数(利用者ごとに利用日数は異なります。)

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
下記は定員													
芦屋みどりホーム	12 15	12 15	12 15	12 15	12 15	12 15	12 15	12 15	13 15	13 15	13 15	14 15	149 180
みどり第2ホーム	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	10 12	9 12	119 144
みどり第3ホーム	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	5 6	60 72
合計	27	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	28	328
定員	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396

- ① 平成30年度は、約27名の方が3ヶ所のホームで生活をされましたが、その約半数の利用者が保護者の死亡や高齢化で土・日および盆・正月が帰省できない状況にあります。今後は、土曜・日曜、盆・正月対応に関して、職員体制をより充実して、「親なき後」の生活を支えていきたいと思っております。
- ②又、ホームは就労を支える場としても大切です。3ヶ所のホームから、一般就労として工場や会社に通う方、みどり作業所へ通う利用者達の就労を支援させていただきました。

2、職員配置及び職務内容

- イ、管理者(芦屋みどり作業所と兼務)は、従業者の管理、共同生活援助の利用の申し込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うとともに、従業者に対し法令等を遵守させるために必要な指導を行いました。
- ロ、サービス管理責任者は、個々の利用者の個別支援計画を作成し、その支援計画に基づいてサービス管理や評価を行いました。
- ハ、生活支援員は、生活上の相談に応じ、日常生活の適切な支援を行いました。
- ニ、世話人は、食事の提供や日常生活の支援を行いました。
- ホ、栄養士の指導による朝食・夕食提供により食生活面での健康管理を行いました。

3、春日町ホームの建て替え

現在共同生活住居が3施設ありますが、そのうち春日町ホームは平成14年に建設し(当初は作業所と併用)、途中隣地を購入し増設している為に、平成30年度は春日町ホームの利用に関して、不便を感じました。そこで、平成32年の春日町ホームの建て替えを計画し、建設費等の準備を進めていきます。

①実施期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

②実施場所 芦屋市陽光町4-60

③職員体制 管理者1名 生活支援員3名 栄養士1名

## ④実績

月	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	月計	実人数	稼働率
4	8	12	77	19	10		126日	17人	35%
5	8	11	82	13	7		121日	15人	32%
6	8	9	60	40	9	2	128日	17人	35%
7	8	7	67	41	8	2	133日	17人	35%
8	8	9	55	36	10	2	120日	16人	32%
9	8	4	64	29	10		115日	15人	31%
10	8	6	58	35	10	2	119日	16人	31%
11	8	8	72	37	8		133日	18人	36%
12	8	6	67	39	8		128日	16人	34%
1	8		76	38	7		129日	16人	34%
2	8		59	56	8		131日	19人	38%
3	8		53	54	9		124日	17人	33%

## ⑤総括

平成30年度の利用実績からみると、利用人数、稼働率ともにほぼ横ばいの状態である。要因としては、新規の利用者は数名いたが、継続しての利用が少なかったためと思われる。利用につながる経緯については、利用者家族等からの問い合わせも若干あったが、相談支援事業所を通しての問い合わせ、利用というケースも増えてきている。そのような状況を踏まえ、新規利用者の獲得には相談支援事業所への空床情報の提供が必要である。支援の面では重度な利用者が若干増加傾向にある。また、未就学児や低学年の利用者が数名いたので、職員が障がい児に対する専門性の高い知識等を取得できるような職場環境が必要である。